

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

福井県における肝炎医療コーディネーターの養成の現状と課題 および新たな取り組み

研究分担者：野ツ俣和夫 福井県済生会病院 内科・顧問/肝疾患センター長
研究協力者：橋本まさみ 福井県済生会病院 看護部

研究要旨：①福井県における肝炎医療コーディネーター（肝 Co）養成とスキルアップの歴史と変遷について ②福井県における肝 Co の養成研修会の確認テスト、認定機関の有無と方法、スキルアップの取得状況把握について ③新たな取り組みとして要介護者への対応として他領域と協働し福井県独自の取り組みについて検討した。肝 Co 養成研修会やスキルアップ研修会の様式、各種制定は、その時の状況に応じて最適に変更し肝 Co のモチベーションアップを目指す必要があるが、根本的な姿勢である患者を想うマインドを、他領域からも参考にし改めて再認識する必要があるものと思われた。

A. 研究目的

福井県では2011年より肝炎医療コーディネーター（肝 Co）養成を開始しているが、これまでの歴史と変遷を確認し、現状を把握し課題を明らかにすることを目的とした。また、自分で病院に來れない要介護肝炎患者の受診・受療を促進するためにケアマネジャーと協働で新たな取り組みを行った。これらから、今後の肝 Co 養成方法を模索するとともに真の肝 Co のあり方を再認識する。

B. 研究方法

- ①過去に行われた肝 Co 養成研修会、スキルアップ研修会のそれぞれについて、開催時期、形式、内容の状況について整理し、これまでの変遷を振り返りまとめた。
- ②肝 Co 養成研修会の確認テスト、肝 Co 認定期間、肝 Co スキルアップ取得状況把握の現状を確認し、課題を示した。
- ③要介護 C 型肝炎ウイルス陽性患者の受診促進のためにケアマネジャーと協働で取り組み、受診推進アルゴリズムを作成し、

実際の周知のための研修会を開催した。

C. 研究結果

肝 Co 養成研修会、スキルアップ研修会の 変遷



①a. 肝 Co 養成研修会：

2011年（黎明期）に一度開催した。土曜日の9時から16時30分まで福井市ホテルの会議室で8人の講師（医師、メディカルスタッフ、他県の講師）による一方的な講義形式で開催した。知識を伝えるのみであった。2015年、2016年（活動初期）は、平日の昼

2 時間、福井県内 3 か所の県民健康センターにおいて、前半に医師より全体的な基礎知識講義、後半にグループディスカッション形式で肝 Co が活躍するための意見交換を行った。自治体職員が参加したものの、平日の昼開催のため医療機関からの参加はほとんどなかった。

2017 年、2018 年、2019 年（活動本格期）は、日曜日の 10 時から 16 時まで、前半は医師、メディカルスタッフ 6 人による講義、後半はグループディスカッション、パネルディスカッション、事例紹介、ビデオ鑑賞などにより、コア肝 Co の司会のもとで、具体的な肝 Co の活動方法の取得を目指した。

2020 年、2021 年、2022 年（コロナ期）は、非集合型形式とし、肝臓基礎講義は、Youtube を使用しオンデマンド形式で 3 週間の間での事前動画研修とし、研修会当日は 2 時間ライブで、コア肝 Co による実際の活動方法の WEB 講義を途中でアンケートを入れながらの双方向参加型で開催した。講義内容は毎年一部変更した。

2023 年（コロナ明け期）は、基礎講義は Youtube を利用したオンデマンド事前講義を踏襲し、養成会当日は、現地集合型で、コア肝 Co による WEB で行った方法を踏襲しインタラクティブな肝 Co 活動方法の勉強を行い、患者会の方とのインタビューと患者としての体験を混えた講演を行った。講演は好評であった。

①b. スキルアップ研修会：

2014 年土曜日午後、佐賀大学の講師 2 人を招き、御講演、Q&A 形式ディスカッション、2018 年土曜日午後、山口大学の講師をお招きし、御講演、パネルディスカッションを行った。

2017 年平日夜に 2 時間、福井県 2 ヶ所で、参加者による肝 Co 活動の意見交換、グループ発表を行った

2018 年平日夜に 2 時間、福井市で特別講師による動機づけ面接の講演、実践を行った。

2019 年平日夜に 2 時間、WEB 形式で肝 Co による患者への声かけ、言葉、フレーズを事例別に検討する形式で行った。2020 年は中止
2021 年は WEB 形式ブレイクアウトルームを使用し、2022 年は集合型で、事例検討をグループワーク方式で行った

2023 年は、医師による最新医療知識、県外講師による最新 Co 活動の講演を行った。

②肝 Co 養成研修会確認テスト、肝 Co 認定期間、肝 Co スキルアップ取得状況把握：

確認テストは、2018 年活動本格期に知事認定書発行開始とともに行った。内容は○×型式で各分野から計 15 問、記述型式で受検・受診・受療で出来る事を記述とし、終了後解答を解説し、受験者は全員合格、全員に、後日肝 Co 認定書・肝 Co バッチを渡した。

肝 Co 認定期間は、2018 年に福井県が作成した肝 Co 要綱に制定してある 3 年間とし、養成会またはスキルアップ参加により認定期間を更新する更新制とした。しかし、3 年を過ぎ更新しない肝 Co が多数となり、実際の肝 Co 数が減少している。更新の条件の見直し、e-learning 形式の取入れなどが議題になっている最中である。

肝 Co スキルアップ取得状況把握は、肝 Co 活動報告書（相談、啓発、受験勧奨、受診勧奨達成有無）を肝 Co が記載する形式で、当初は用紙記載で行い、2022 年からは福井県ホームページの Forms からの入力を可能とした。しかし、活動状況把握の仕方は抽象的であり、具体的な全国的に同じような把握方法の確立が必要であると思われた。

③要介護 C 型肝炎ウイルス陽性患者受診促進の取り組み：

2022 年に福井県介護支援専門員協会と共同でケアマネジャー対象の要介護 C 型肝炎患者に関するアンケートを行った（回答 239 名）
C 型肝炎の知識に関しては、基本的な事は認知があるものの、飲む薬（DAA 製剤）による治療のことや肝炎医療費助成制度のことは

約3割の認知に留まっていた。また、肝専門医との連携はほとんどなされておらず、受け持ちにC型肝炎患者がいるものの受診・受療に繋がっていないケースがあることが判明した。そこで、介護支援専門員協会とともに、要介護C型肝炎患者の受診促進のための対策を協働で行うこととした。

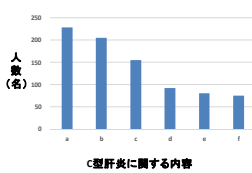
ケアマネジャーアンケート結果

図1

a. アンケートの設問、回答、人数、割合(%)

設問	回答	人数	割合(%)
1. C型肝炎を知っていますか	はい	235	98.3%
	いいえ	4	1.7%
2. 受け持ちに肝長の方はいますか	いる	122	51.0%
	いない	58	28.5%
	わからない	49	20.5%
3. かかりつけ医・肝臓専門医と連携が取れますか	とれる	117	49.0%
	とれない	122	53.0%
4. 連携が取れる場合量と連携出来ますか	かかりつけ医	114	86.4%
	肝臓専門医	3	1.3%
5. 利用者に肝長の治療をした方がいいと思う人はいますか	どちらとも	14	10.6%
	いる	7	2.9%
	いない	166	69.5%
	わからない	66	27.6%

b. C型肝炎について知っていること

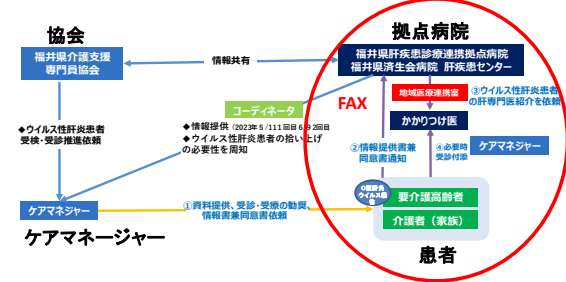


C型肝炎に関する内容:

- a. 血液を介して感染する(n=229)
- b. 放置すると肝硬変肝臓になる可能性がある(n=209)
- c. ウイルス検査を受けて診断される(n=159)
- d. 自覚症状によって発見される(n=93)
- e. 医療費補助制度の対象である(n=81)
- f. のみ薬だけでほとんど治る(n=7)

ケアマネジャーの患者受診促進へのハードルは、①医療知識の不足、②患者への説明、③かかりつけ医への肝専門医紹介依頼と推察し、肝疾患診療連携拠点病院(肝拠点病院)および肝Coが関わる要介護C型肝炎患者受診促進アルゴリズムを作成した。アルゴリズムは、ケアマネジャーが患者さんまたは家族にごく簡単なC型肝炎アンケートを行い、アンケートを肝拠点病院へFaxし、肝拠点病院は情報を元に、ケアマネジャーの代わりにかかりつけ医に肝専門医紹介依頼を行うという形式である。

要介護C型肝炎患者の肝専門医紹介のための関係者の関係(協会、ケアマネジャー、拠点病院、患者)



- ①介護者(家族)へ説明、情報提供書同封書(様式①)依頼(コーディネーターがサポート)
- ②情報提供書同封書(様式①)を福井県済生会病院肝疾患センターにて通知
- ③かかりつけ医へ、ウイルス性肝炎患者の肝専門医紹介を依頼(肝疾患センターがサポート)
- ④必要に応じてかかりつけ医への受診付き回し(コーディネーターがサポート)

要介護C型肝炎患者にケアマネジャーが使用する患者アンケート用紙と肝臓専門医受診促進アルゴリズム

a. 患者アンケート用紙

【C型肝炎の要介護者に関する情報提供書兼同意書】

- C型肝炎である
 - はい
 - C型肝炎ウイルス検査を受けて陽性になった
- 治療
 - インターフェロン治療 (治療期間 年 月)
 - DAA薬治療 (治療期間 年 月)
- 受診状況
 - かかりつけ医に相談 ()
 - 肝臓専門医に相談 ()
 - 受診していない
- 【要介護者(家族)の肝疾患に関する肝専門医紹介依頼に同意する個人情報を取得いたします。】
 - 同意する(要介護者本人の同意) ()
 - 同意しない(要介護者本人の同意) ()

年 月 日 (生年月日) 年 月 日 (生年月日)

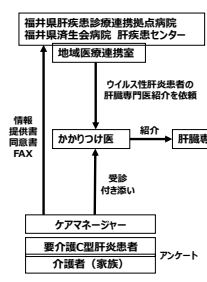
(代表者氏名) (要介護者との関係)

(住所) (電話番号)

宛先: 福井県済生会病院肝疾患センター FAX: 0776-28-8538

宛先: (郵便番号) (電話番号) (電話番号)

b. 受診促進アルゴリズム



その後、アルゴリズムの周知を目的に、ケアマネジャー対象の研修会を福井市の地域包括ケアセンターごとに計9回、101名を対象に実施した。研修会では、医師よりC型肝炎に関する講義および質疑応答を行い、肝Coより患者への説明、受診促進のためのノウハウを説明し質疑応答を行ったが、肝Coからの話は、ケアマネジャーに大変好評であり、肝Coはきわめて重要な役割を果たしている。

D. 考察

肝Co養成研修会は肝疾患患者の受検・受診・受療促進にいまや欠かせない存在であり、多くの肝Co養成を行うことがきわめて重要であり、福井県では2011年より養成会を開始した。当初、一方的肝臓知識講義形式または肝Co活動グループディスカッションをいずれもどちらかの単独で行ったが、双方が必要であると思われる。しかし、長時間の養成会となる問題があり、福井県では講義をYoutubeを利用したオンデマンド事前

学習とした。オンデマンド形式講義は好評であったが、一方で実際の学習状況把握、知識取得状況把握については今後検討する必要がある。また、養成会の開催日時は、土曜日午後、日曜日、平日日中、平日夜、開催場所は、1か所、複数個所、開催回数は1回、複数回と模索を繰り返したが、働き方改革が始まる昨今、参加者の長時間の拘束は難しく、可能な範囲で行うしかないものと思われる。スキルアップ研修会は、養成研修会に参加した肝Coを対象にレベルアップを図るためのものであり、グループ学習や特別講義を行っているが、様式にこだわらず、その都度その年の状況に則して肝Coがさらに積極的に活動するモチベーションをアップするための楽しい企画にすることが肝要と思われる。また、肝Co認定期間の設置の有無、認定の条件、肝Co活動状況把握については今後議論を続ける必要がある。

今回、要介護C型肝炎患者受診促進のためにケアマネジャーと協働で取り組んだが、ケアマネジャーは、医療知識は乏しいものの福祉のマインドに長けており、患者さんのためになることに積極的であり、疾患啓発や受診勧奨の重要なチャンネルと言われている。医療側より、積極的にケアマネジャー研修会を行い、医師より医療知識の講義、質疑応答を行うとともに、肝Coによる患者さんへの説明の仕方、受診促進のための声かけやフレーズの伝授は重要である。肝拠点病院および肝Coがケアマネジャーを後押しすることにより、より重要な肝疾患診療推進の戦力になるものと思われる。またケアマネジャーの患者を想う純粋な心は肝Coにとってきわめて参考になると思われ、今後さらにいっそうタイアップ一緒に肝Co活動を推進していくことが望まれるものと思われた。

E. 結論

肝Co養成研修会、スキルアップ研修会は時代の状況、参加者、役割者の状況に応じ

て変遷してきたが、その都度その時の現状に応じた方法で可能な範囲で行うことが肝要である。患者を想うマインドの重要性を再認識された。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

ケアマネジャー研修会9回
介護支援専門員総会発表

G. 研究発表

野ツ俣和夫、野村能元、上田晃之、真田 拓、平松活志. 「要介護C型肝炎患者の受診・受療促進のための取り組み～C型肝炎版ソーシャルインクルージョン～」肝臓 64 卷 suppl.3 Page A838. 2023

橋本まさみ、佐竹公一、野ツ俣和夫. 「本邦における肝炎医療コーディネーター (Co) 養成・スキルアップの変遷と研修会企画におけるポイント」肝臓 64 卷 Suppl.3 Page A808 2023

橋本まさみ、土山実起、土橋 仁、佐竹公一、野ツ俣和夫. 「コロナ禍におけるテレビ市民公開講座の企画 SLGs て何？」肝臓 64 卷 suppl.1 Page A306. 2023

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他